

学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学

北海道文教大学大学院 北海道文教大学附属幼稚園
北海道文教大学明清高等学校

新年交礼会年頭所感

(平成三十一年一月七日)

理事長 鈴木武夫

新年明けましておめでとうございます。

教職員の皆様方におかれては、晴れやかな新年を迎えられたことと思いますが、平成31年の「新年交礼会」に当たり、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみると、全国的に自然災害が多く、特に北海道では9月に北海道を襲った震度7という大地震により、北海道全体で、ブラックアウト（大規模停電）が起こり、被災された方もいらつしやうと思えます。

今年も穏やかな年になるよう願っております。一方、本学園は教職員の皆さまのご協力の下に大過

なく過ごすことができました。

私は、昨年4月から理事長職に専念することとし、新学長に渡部俊弘学長をお迎えいたしました。渡部学長の下で北海道文教大学等の改革を託し、将来構想委員会の方針に添って、大学改革、高大連携、自治体・産業界との連携協定を進めるなど積極的な対外戦略の下で、その成果を上げようとしております。

言わずもがなではありませんが、少子化が進む中で私立大学等の経営環境は厳しさを増しております。

大学では、18歳人口の減少により学生の確保が大変難しくなっております。私学においては、主に学生納付金によりその運営を維持しており、学生が集まりませんと経営が成り立ちませんので、健全な経営基盤を確保するためにも学生の確保に努力していただきたいと思っております。

18歳人口は、1992年には205万人おりました。このときは、臨時定員増など大学も色々な工夫をして対応してきました。2006年までは、横這いで推移していた18歳人口は、2007年以降になると大変少なくなっております。

205万人いた18歳人口は13年後の2032年には100万人をきり、88万人となり、大学の経営は大変厳しくなっております。

これを機に地方の小規模大学・短大が、定員減をしようと考えておられるようですが、私学というのは学生数によってその大学の運営が変わってまいります。

ある程度の規模を有していることが財政基盤の維持・安定に資するといわれておりますが、今大学は、小規模大学と大規模大学の二極化に向かっていくといわれております。小規模大学がいろいろな問題を抱えることになってきます。

定員を割らずに、安定した教育を実現するため

に学生の確保が重要なのであります。大学のみならず、幼稚園も、あるいは高等学校においても同じようにお願いしたいのであります。できればこの機会において、本学では3000人規模の大学にしたいと考えております。

18歳人口減で学生の確保が難しくなっているなか、求める学生をどこから確保するかという点、やはり留学生をだろうと思えます。渡部学長が海外を含む諸大学へ赴きまして、色々と学生確保についての交渉をしております。近い将来には、留学生が増える等その効果が期待できると思っております。

一方、国内におきましては、18歳人口が大学の入学者であると言う風に考えておりますが、諸外国によりまして、25歳〜30歳の学生が日本より高い比率で大学に在学しております。生涯学習の受け皿としての大学の役割も考えなくてはならないと思っております。OECDの調べによりまして、アイスランドでは、83.2%が25歳以上の学生であります。日本は4.6%ということがありますから、この辺の方々に大学へお迎えして、大学の運営の安定を図りたいと考えております。

本年も、鶴岡学園・教育100年ビジョンの下で、大学運営に取り組んでいただけるものと思えますが、これらを着実に実行し達成するためには、教職員の皆さんの理解・協力が不可欠です。鶴岡学園が学生・生徒、保護者から理解され、地域社会からも信頼される、より魅力ある学園となるために、年頭に当たり教職員の皆さまのご協力をお願いする次第であります。



新年のご挨拶

学長 渡部 俊弘

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、幸多き新年をお迎えることお慶び申し上げます。また、昨年の北海道胆振東部地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますと共に、甚大な被害に見舞われながら、本学学生・保護者様・職員一同が、無事新しい年を迎えられたことに感謝いたします。

さて、昨年から新学長に就任いたしました。理事長・前学長 鈴木 武夫先生から引継いだ十三項目の課題の内、最重要課題であ

る、入学定員の確保・財政の健全化を今年も目標に掲げます。それらを達成するためには、教育と研究の充実が必要です。つきましては、先生方の一層のご協力をお願いいたします。

昨今の少子高齢化の波は避けては通れませんが、いろいろな視点から物事を捉えていくことが問題解決策であると思います。そのためには、まず、学園に全体的な最適化の考えを取り入れていく所存です。日本においては、各部署のみで仕事をするのを優先してきました。本学園においてもそうです。

部分的な最適化を重要視してきたわけです。全体的な最適化を行う上では、共助・共働・共存の関係性の構築が必須ですが、これについては、私が尊敬しているマザー・テレサの次の言葉が喚起されます。

「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」思考はいつしか運命に成り得ます。入学定員を確保し、学園の財政を健全化するためには、職員一同が当事者感を持ち、各部署の枠を超えながら議論し、仲良く一緒に頑張れる。そのような運命を共に築いて参りましょう。

よろしく願いたします。



2 医療法人及び登別市と包括連携協定を締結

本学は今年9月以降、2つの医療法人（社会医療法人榎心会グループ及び医療法人社団豊生会）及び登別市と医療・教育・研究等に関する連携・交流を促進するため包括連携協定を締結しました。

本学は、医療職者を養成する教育機関として多数の医療機関に実習施設として協力・支援をいただいておりますが、教育・研究のみならず医療連携を含めた包括連携協定を医療機関と締結するのは今回が初めてです。

また、各医療機関においても医療職者を養成する大学との包括連携協定の締結は初めてのこととなりますが、両機関がそれぞれの社会的役割を踏まえ連携することにより双方の機能強化を図り、大学と地域医療機関との新しい連携モデルの構築を指すものです。

榎心会グループとは

平成30年9月5日付、豊生会とは平成30年12月14日付でそれぞれの代表者等参列の下で包括連携協定を締結しました。

また、登別市との協定は地元恵庭市に次ぎ2例目となりますが、12月21日に調印式を行いました。



医療法人社団豊生会との調印式（H30.12.14 東苗穂病院）



登別市との調印式（H30.12.21 本学本館会議室）



社会医療法人榎心会グループとの調印式（H30.9.5 榎心会病院）



「ノート講座」風景

新入試制度「ディスカバリー・プログラム」が始まり、「育成型入試」が志願者の期待に応える

文部科学省より高大連携、入試改革、大学改革の方針が示され、2020年度より新入試制度がスタートすることになりました。これに伴い各大学では、志願者（高校生）がこれまでに培ってこられた「学力の3要素」にもとづき「知能・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度・協働」の各項目を評価選別し、自らが主体的に学ぶ姿勢を持つ入学生を積極的にむかえ入れ、大学の教育理念やカリキュラムにより教育の質を担保し、4年間で何ができるようになったかを明確にし、多様で優れた人材を社会に送り出すことがその目的とされています。さらに、学力偏重の入学試験を見直し、グローバルで多様な人材を見出す入学試験を大学に求めています。本学も基本的にこれに賛同するものです。

しかし、志願者にとっては新たな重圧や不安を感じられる皆さんも多く存在することは、想像にたやすいことです。そこで、「本学が求める学生像」に沿う志願者を選抜するには、今までの入学試験とは異なる「育成型入試」方式を検討し、志願者・本学双方に望まれる関係を作り出すべきと思い、「志願者の皆さんと共に考え、共に歩むディスカバリー・プログラム」を提案し、2019年度入学試験より実施開始いたしました。

ディスカバリー・プログラムは、本年度夏季・秋季日程の全14講座と28面談が実施されました。「ノート講座」は、本学教員による模擬授業を体験し主体的学びの一助となるノート指導をおし事前予習、当該講義確認行為、自宅での振り返りによる復習をワンセットとしています。これら一連の学習習慣が自ら考える姿勢を育て、問題提起を行う準備行動になると考えるからです。職員による「面談」は、目標を具体的に可視化し、「求められる学生像」を具現化することで進路実現のハードルや修学意志を明確化するお手伝いを行います。受講者には、この「ノート講座」「面談」を各2回以上受講していただきました。

このプログラムの最大のポイントは、本学が用意する全ての入試区分の志願者が参加でき受験準備や受験期決定の大きなささえとなったことにあります。プログラムの本年度参加者数は延べ322名となり、参加者の30%がディスカバリー入試に、公募推薦は35%、AO入試は13%が挑戦しそれぞれ目標をクリアしました。今後、残る22%の受講者が一般入試に挑戦する予定です。

2019年度本学入試は、新入試制度導入により全入試区分で「志望理由書」の提出を新たに求めており、さらに、一般入試では、教科目試験に加え新たに「小論文」、「面談」、「集団面接」を学科ごとに課しています。これらの対策準備に参加した志願者がいることがうかがえ、本学の思いのとおり全志願者に対して入学前からの導きにより、自ら主体的に学ぶ学生が増加し、HBU独自の教育システムが0年次よりスタートする実績を示したいと思っています。プログラムの経験を踏まえさらに反省と修正を加え、志願者の理解と共感を確実に得るために研鑽を重ね、さらに全学的共通認識の上に「ディスカバリー・プログラム」が「育成型入試」としてその役割を十分に果たし、全教職員が一体となりHBU教育システムのスタートプログラムとして育てあげていきたいと願っております。



「面談」風景

北海道文教大学明清高等学校は、併設校北海道文教大学(HBU)とのより密着した高大連携をめざし、**HBU恵庭キャンパスへ移転いたします。**

新生!

「北海道文教大学附属高等学校」

(仮称)

7年間の系列高大連携教育=「同一キャンパスのメリットを最大限に活かし、生徒・学生をプロとして社会に送り出します!!」

HBUの就職率と国家試験合格率の高い実績 ※共に2017年3月卒業生実績

就職率

99.8%

(就職者 **502**名 / 就職希望者 **503**名)

→ 全国 **27**位、道内 **1**位

国家試験合格率

92%

(合格者 **324**名 / 受験者 **353**名)

新校舎イメージ図(外観)

ステップアップを可能にする
3つのポイント

2 国公立大学への進学も支援

特進クラス全員がHBUのみならず国公立大学を目指し、教職員一丸となり教育支援を実践します。

1 高大連携した教育体制を確立

同一キャンパスで独自の高大連携教育「HBU進学プログラム」を軸に個々の能力を最大限に伸ばします。

3 全国レベルの専門教育

伝統の調理・全国でも活躍するスポーツを通して個々の才能+αの資質を開花させます。

▶ キャンパス移転におけるスケジュール

2021年4月を機に、全校生徒一斉に恵庭キャンパスへ移動となります。

入学年	通学するキャンパス		
	1年次	2年次	3年次
2019年4月 入学生	→	藤野キャンパス <small>キャンパス移転</small> → 恵庭キャンパス	
2020年4月 入学生	藤野キャンパス <small>キャンパス移転</small> →	恵庭キャンパス	→
2021年4月以降 入学生		恵庭キャンパス	→

▶ 高大連携教育に伴う新プログラム

高 大 連 携

3年 + 4年 → 7年

高校3年間だけではなく、高大連携した7年間の教育を想定し行っていくことで、高校大学間の垣根を取り払った広い視野での教育サポートを提供します。

〈HBU進学プログラム〉

国家試験合格率及び就職率道内1位の実績を維持し続けるHBUへ、附属高校からHBU進学プログラムを経て推薦進学が可能です。

〈キープ&チャレンジ制度〉

HBUの推薦を受け入学の権利をキープしながら、国公立大学にチャレンジできる制度です。

〈通学支援制度〉

通学費用の負担を軽減し、生徒の皆さんの希望ある就学機会を確保し支援することにより、キャンパス移転に伴うリスクや不安を取り除くことを目的とした制度を設けます。



明清高等学校「進修実践」 ～平成30年度を振り返って

教職員一同、「チーム明清」として今年度の学校経営目標「進修実践」（進んで学問と豊かな人間性を修め、自ら実践できる生徒を育成する）の実現に邁進しています。



生徒が主体となって 地域貢献を継続、実践中

今年度も引き続き、普通科人文進学コースでのこども・保育プログラムやサッカープログラム、そして食物科調理製菓コース、あるいは部活動で地域貢献を実践中です。

5月のこども・保育プログラム生と園芸部による町内会との「通学路沿線花壇整備」に始まり、吹奏楽部、DANCE部による藤野の特別養護老人ホーム「らいらっく」への年2回の訪問演奏と実演。そして6月の食物科2年生の藤野第1町内会「高齢者食事会」への幕の内弁当提供と9月の食物科1年生による石山の老人ホーム「宏楽苑」へのおはぎ・いなり寿司提供訪問。製菓部とこども・保育プログラム生は6月の幼稚園まつりで焼き菓子提供とお手伝いボランティア。製菓部は今年も石山夏まつりで焼き菓子販売、DANCE部はステージ出演。DANCE部は8月の藤野ふる里まつりへもステージ出演。9月には製菓部が藤野の「むくどりホーム」お月見会への焼き菓子提供とお手伝いボランティア等々、地域での活動に積極的に参加し、喜ばれています。他にも、地域のイベントへの参加要望が沢山来ているのですが、学校行事や日程の関係でお断りすることも多くなっています。ボランティア部も従来からの活動を継続しており、この冬には男子サッカー部による高齢者宅除排雪ボランティアも予定されています。さらに新たに料理同好会も立ち上がったので、今後ますます、地域との積極的な融和と連携を進める予定です。



学校行事や部活動を振り返って

本校の修学旅行は、広島での平和学習と宝塚での歌劇団公演鑑賞、そして京都では、普通科での京都大学留学生との国際交流、食物科での京料理調理体験がこの数年間の主な内容となっています。今年は、さらに京都・大阪での自主研修日に各組全班対抗での写真コンテストが設定され、旅行後、生徒や教職員等からの投票で風景・人物でのベストショットが選ばれました。

食物科は、今年度も全調協豚米グランプリなどの各種コンクールや大会へ出品・出場し、9月の「とがちマルシェ料理甲子園」決勝では2年生2チームが出場し審査員奨励賞を受賞しました。なお、宮島学園北海道製菓専門学校へのダブルスクール制度（C-netスクーリング）生12名が全員、製菓衛生師試験に合格しました。

女子サッカー部は、今年度は「高校インターハイ」と「皇后杯全日本女子サッカー選手権大会」では全国大会へ駒を進められなかったものの、10月の「第27回北海道高等学校女子サッカー選手権大会」では4連覇し27年連続で全国大会出場を決めました。

しかし正月の全国大会では、過去3度優勝の強豪校と対戦、0-1で惜敗しました。



HBU進学プログラムも進展



北海道文教大学との高大連携の一つである本校独自のHBU進学プログラムも、今年度さらに進展し、1年生で2回の「HBUを知ろう」大学見学・体験、2年生では「HBU出前講座・スクーリング」実施、3年生でも「HBU出前講座・スクーリング」の他、「HBU志望理由書講座」、「HBU小論文講座」等々のいわゆる「新田塾」が実施されています。おかげさまで文教大学への推薦・AO受験合格が昨年に引き続き100%となっています。3月には1年生保護者対象「HBU進学プログラム説明会」が予定されています。

健康栄養学科

健康栄養学科
4年

小松 桃子

北海高等学校
出身



株式会社 明治(管理栄養士) 内定

スポーツに「食」の知識を生かしたい!

その思いが現実になりました

いろいろな人と出会い
視野が広がった4年間

中学、高校、大学と、バスケットボール部で汗を流してきました。高校のとき、管理栄養士さんに栄養指導してもらったことが、この仕事に興味を持ったきっかけ。大学進学の際、栄養の知識はさまざまな場面で役立つと思い、食の分野へ進みました。この大学を選んだのは、学科が多く、いろいろな考えの人と関われると思ったから。実際、部活で多学科の人と交流を持つことができ、視野が広がりました。何事にもあきらめずに取り組めるようになったのは、スポーツを続けてきたお陰です。

企業の管理栄養士として
スポーツに関わるのが夢

病院や学校で献立を考えるのが一般的な管理栄養士のイメージですが、企業に所属し、たとえばスポーツに役立つ栄養を提案するのも管理栄養士の役目。内定をいただいた(株)明治は、スポーツに欠かせないプロテインなども扱っています。学校に向いて、セミナーの講師を務める機会などもあるということで、スポーツに取り組む子どもたちと関わることがあれば、食事の大切さを伝えたいと思っています。いまは国家試験に向け、毎日図書館で夜9時半まで勉強に励んでいます。

理学療法学科

理学療法学科
4年

高橋 幸助

北海道北見北斗
高等学校出身



医療法人ひまわり会
札幌病院(理学療法士) 内定

目標を持って学べた4年間

確かなビジョンも見つかりました

友人たちとの出会いが
自身の成長につながった

教員か、理学療法士か、迷っていた時期もありましたが、子どもから高齢者まで、対象が幅広く、さらに整形外科だけでなく、難病によってリハビリが必要な患者さんまで、多くの人の役に立てるところに魅力を感じ、理学療法士の道を目指しました。北海道文教大学へ進学したのは在学学生だった姉から「切磋琢磨しながら学べ、人間関係を育める」など、大学の魅力を、体験を通して教えてもらったことが決め手。実際、ここで出会った友人の影響で、ポジティブな考え方が身につきました。

経験と知識を深めることが目標
理学療法の実践に貢献したい

内定先の病院は最後の実習先で、そこで小児を経験し、「ここで働きたい」と思ったことが志望の理由です。大学の先輩も多く、就職試験の際は、アドバイスをいただくなど、何かとお世話になりました。大学の4年間は、目標を持って学べたこともあり、より深い知識を得られたとともに、勉強に終わりがいいことを実感。理学療法士として経験を積んだ後は、大学院へ進学し、研究の成果を出すことが将来の目標になりました。同じ世界で働く友人たちは、これからも心の支えです。

看護学科

看護学科
4年

津田 紫乃

とわの森三愛高等学校
出身

医療法人 溪仁会
手稲溪仁会病院(看護師) 内定

この大学には、きめ細かな指導体制と人として成長できる環境があります

温かい雰囲気と
少人数制の指導体制が特徴

小学生のとき、家族で北海道を訪れ、その広々とした景色に感動し、高校から単身北海道へ。高校では酪農を学びましたが、動物を通して“生”と向き合い、結果的に人の命にかかわる医療の分野に興味を持ちました。姉が理学療法学科で学んでいたことから、この大学へは何度か足を運んだことがあり、そのときに感じた温かい雰囲気、「ここでなら、楽しく学べそう」と感じたことが志望の決め手です。実習の際、2~3人の学生に1人の先生がつく、きめ細かな指導体制はここならではの。

就職のサポート体制も万全
人としても成長できた4年間

看護といっても、その対象は急性期から終末期まで幅広く、まずは救急で経験を積み、ステップアップしていきたいと考え、救急救命に力を入れている手稲溪仁会病院を志望しました。その思いを志望理由としてしっかりと伝えることができたのも、就職課の担当者が親身になってサポートしてくれたお陰。面接練習に小論文の添削と、就職課にはだれよりもお世話になりました。4年間を通して、相手を尊重することの大切さを学び、人としても成長できたと実感しています。

作業療法学科

作業療法学科
4年

矢田 翔馬

北海道旭川南高等学校
出身

医療法人 歎生会
豊岡中央病院(作業療法士) 内定

卒業後も知識と技術を高め 作業療法の可能性を広げたい

学んだ知識を実習で生かし
人の役に立つ喜びを実感

作業療法と理学療法の違いを聞き、患者さんの生活までサポートする作業療法士に興味を持ちました。就職率、資格取得率が高いだけでなく、先輩方がフレンドリーで、安心感を持てたことがこの大学に進学した理由です。解剖学など専門的な勉強は大変でしたが、学んだ知識が病院実習で役立ち、患者さんに喜ばれたとき、この分野に進んでよかったと実感しました。コミュニケーションが必要な仕事ということもあり、大学でも、バイト先でも、人と積極的に関わろう心がけています。

先生方から刺激を受け
自分の将来像が明確に

身体から精神まで、対象分野が幅広い作業療法は、学べば学ぶほど興味が深まる一方、高度な知識を持った先生方から刺激を受け、作業療法の発展に貢献したい気持ちが強くなっていきました。医療法人 歎生会 豊岡中央病院を志望したのは、急性期から回復期まで、さまざまな症例の患者さんと関わることができ、スキルを高められると思ったから。まずはそこで経験を積み、将来は大学院に進学して認定および専門作業療法士の資格取得を目指すとともに、さらに研鑽を積むことが目標です。

文教 元教 気印



雨にも負けず、台風にも負けず… 『恵華祭』開催

平成30年10月6日(土)、7日(日)に開催された大学祭「恵華祭(けいかさい)」は、台風25号の影響で開催が危ぶまれましたが、プログラムの省略や開始時間の遅れなどの影響はあったものの予定通り終了することができました。他大学では中止になった大学もあったようで、無事開催できた本学は幸運だったといえるでしょう。

今年の大学祭は、大学祭実行委員の成り手が非常に少ないため、例年規模の内容ではありませんでしたが、教職員やサークル学

生、同時開催の父母懇談会に出席された保護者の方々の協力もあり、模擬店は大盛況でした。

また、新企画として、市内の余湖農園様から規格外野菜を無償でご提供いただき「チャレンジ!野菜詰め放題」を実施。50円で玉ねぎ、にんじん、じゃがいもをビニール袋に詰める企画です。50名が挑戦し、野菜で一杯になった袋に大満足の様子でした。



吹奏楽部クリスマスコンサート 美しい音色響かせる

平成30年12月16日(日)鶴岡記念講堂2階「大ホール」にて本学吹奏楽部による「クリスマスコンサート」を開催しました。部員たちが日頃の練習の成果を広く市民に公開し、子どもから大人まで楽しめるクリスマスソングメドレーなど華麗な演奏を披露しました。

コンサートは3部構成で、第1部は吹奏楽の定番曲「K点を越えて」や「吹奏楽のための民話」など、迫力ある演奏で会場を盛り上げました。第2部は「アンサンブルステージ」と題して、木管、金管な

どパートごとの小編成による演奏と技術で観客を魅了しました。第3部は安室奈美恵さんの「Hero」などを演奏。「いつかのメリークリスマス」ではサクソやトランペット、フルートのソロ演奏もあり、演奏が終わるたびに観客からメンバーに向け、温かい拍手が送られました。



女子ラグビー（7人制） 東京オリンピックを目指して

2020年東京オリンピックの種目であるラグビー女子（7人制）の日本代表選手を目指し、日々トレーニングに汗を流している人間科学部健康栄養学科1年 木村あやさんは、中学3年生の時に所属していた陸上部の先生から勧められ、高校1年生（札幌山の手高校）からラグビーを始めたところ才能が開花し、昨年度と今年度に国体の北海道代表に選出された有望な選手です。大学では管理栄養士の資格取得に向け勉強をしながら、女子クラブチーム「北海

道バーバリアンズ～ディアナ～」に所属し、守備の要である「ウイング」というポジションで世界に通用する技術を日々磨きながら、東京オリンピック出場を目指しています。メダル獲得を期待します。



恵庭市スポーツ功労者表彰式にて 『スポーツ賞』を受賞

平成30年11月3日（土）「文化の日」に恵庭市民会館にて行われた、平成30年度恵庭市スポーツ功労者表彰式において、冬季オリンピック平昌大会に出場した女子アイスホッケー日本代表（スマイルジャパン）の外国語学部国際言語学科4年 高涼風（たかすずか）さんが「スポーツ賞」を受賞し、表彰式が行われました。

恵庭市長より表彰状が手渡され、4年後の冬季オリンピック北京大会に向け熱く抱負を語ってくれました。

当日は、渡部学長と国際言語学科の森谷先生が出席され、高さんの功績を称えました。

本学には高さんの他、人間科学部こども発達学科1年生にも女子アイスホッケー日本代表候補の学生がいますので、北京オリンピックでは先輩と後輩の息の合ったプレーでメダルを獲得できるよう、更なる活躍を願っています。

国際言語学科

「英語の先生になる!」… 努力怠らず、夢の実現へ

本学科4年生の大崎裕稀さんが、平成31年度 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査の結果、高等学校英語に登録となりました。そこで今回、大崎さんに大学生活を振り返ってもらいました。

「北海道・札幌市教員採用試験において無事登録となりました。この4年間を支えてくれた祖母、大学の先生方には本当に感謝しております。紆余曲折ありましたが、中学時代からの夢である教員になれることは、言葉では表せない喜びがあります。

しかしこれからまた一からのスタートとなりますので、これまで以上に自己を分析し、挑戦し続けることを強く意識していきたいと考えています。

多くの人が想像する大学生活とは対極にある4年間でした。「楽しい」はあまりなく、「謳歌」というより「苦悩」の連続でした。自分のしている準備が教員に近づいているのかという不安を常に抱えていましたが、その苦悩が今回の結果に結びついたと確信しています。

何を目指すにも可能性に満ちているということ、これから出会う生徒の皆さんに体現し続けていければ、これほど幸せなことはありませんし、また私が教員をする意味があるのではないかと今は考えています」

夢の実現に向けて真摯に努力する先輩の後ろ姿を見て、後輩たちも後に続けとばかり今日も研鑽に励んでいます。「責任感が誰よりも強く安心できる」「さまざまな問題について、教育の意義を常に考えながら解決を試みようとするほど教育好き」「家は図書館かというくらい図書館で勉強している」と慕われる大崎さん、「『先生になりたい』という同じ夢をもつ先輩の中で、受かるという執念が最もすごく、実現もさせた」とは先輩を尊敬してやまない後輩の評です。

大崎さん、おめでとうございました。これからの活躍を期待しています。



留学先のカンボジアで地雷で手足を失った方にお会いし、何か自分にできることをしたいという一心で企画し実現させた講演会のポスター

健康栄養学科

高度・先端的研究医療施設での臨地実習の開始

管理栄養士免許の取得には、管理栄養士が働く職場での臨地実習が必要です。臨地実習は、給食の運営(給食施設)、臨床栄養(病院など)および公衆栄養(保健所など)で行います。臨地実習は、栄養管理や栄養指導の対象となる利用者さんや患者さんに、先輩管理栄養士が実際に行っている仕事を直に経験することができる貴重な機会です。臨地実習で学生は、栄養管理・栄養指導の専門職である管理栄養士・栄養士が備えなければならない態度や行動、職業倫理観などを養い、授業の成果が実際の仕事でどのように活かせるのかを学びます。

これまで健康栄養学科では、主に北海道内の施設で臨地実習を行ってきましたが今年度から、首都圏の高度・先端的研究医療施設(国立国際医療研究センター病院・国立成育医療研究センター病院・国立がん研究センター東病院・国立精神・神経医療研究センター病院など)での臨地実習を開始しました。首都圏での臨地実習を希望する学生には、交通費や宿泊費を大学の負担で送出しています。臨地実習では、臨床栄養の場に勤務する有為な管理栄養士となるために、これらセンター病院の管理栄養士に求められる専門的知識・技術とともに、病棟における医療チームの一員として、また、医師・看護師等他職種との連携を学び、経験することができます。今回の臨地実習に参加した学生からは、「大規模病院における管理栄養士の仕事に遣り甲斐が感じられた。」「道外の学生と一緒に臨地実習は、とても刺激になった。」「首都圏の有名大学の学生に勝てる場面があり、自信になった。」などの報告がありました。文教大学は、始まったばかりのこの制度を大切に育て、学生のためのよりよい臨地実習を目指します。



理学療法学科

4年生は国家試験対策、就職活動、2・3年生は実習準備と試験と頑張っています

理学療法学科の4年生は2月下旬の国家試験の対策と就職活動で大変忙しくしています。昨年度の国家試験では、数名の不合格者がいましたので、今年こそ合格率100%を目指して、毎朝、小テストを行い、その後問題の解き直しをゼミグループで行っています。合格に向けて日々勉強しています。また15回以上の各専門領域の国家試験対策講義も行われています。その成果を1か月に1回の国家試験の模擬試験で確認します。就職活動では病院の見学や筆記・面接試験と忙しい中、就職内定学生が徐々に増えており、12月末時点で約半数の学生が内定しました。最終的に3月の卒業の頃までには就職率100%となります。また4年生は理学療法研究セミナーⅢという実習科目があり、レッドコードを中心に実習をしています。国家試験勉強の息抜きにもなっているようです。

3年生は、1月中旬からの学外臨床実習の関係で12月から試験が行われ、全員が実習に行くことになりました。発達障害理学療法実習では学外で子どもの理学療法場面を見学する実習を行いました。その後、大学で理学療法士役、患者役、見学内容の説明役に分かれて報告会を行いました。また来年1月からの学外の臨床実習に向けて、日々理学療法評価の練習をしています。

2年生は先日まで、2週間の実習がありました。報告会も終了して、1月の試験に向けて勉強しています。



4年生の研究セミナーの様子



3年生の発達障害理学療法実習



3年生の発達障害理学療法実習の報告会

作業療法学科

ALS当事者：深瀬和文さんによる特別講義を実施しました

2018年度前期、3年生の身体障害作業療法治療学実習の授業で、特別講義を実施しました。講師は、一般社団法人日本ALS協会・理事の深瀬和文さんで、ここ10年ほど毎年、特別講義をお願いしています。

深瀬さんは、筋萎縮性側索硬化症 (Amyotrophic Lateral Sclerosis, ALS) という神経変性疾患を患っていらっしゃいますが、全身の筋肉の重篤な萎縮と筋力低下が進行しながらも、強い信念を持ち、当事者団体のリーダーを務められている方です (気管切開をされていて発声はできません)。

講義は、深瀬さんご自身がパソコンで作成したパワーポイントを映写し、自身で作成された文章を付添いの介護福祉士の方が音読する方法で実現しています。この方法で、この病気を発症されたころの心境、ご自宅での24時間介護体制を役所と交渉して実現した経過、現在の当事者団体での活動、ご家族との普段の生活などを、ユーモアを交えて学生に講義していただきました。

また、介護福祉士の方との口文字盤を使った流暢なコミュニケーションを実際に見せていただき、学生が深瀬さんに対面して、その方法をすぐに練習させていただく場面もありました。学生たちは、この貴重な体験を通して、作業療法士をはじめとする医療職が口文字盤によるコミュニケーション法を習得することが、ALS患者さんの生活を豊かにする上で非常に役立つことを理解していました。自宅では意志伝達装置 (視線入力式意思伝達装置マイトビー: C15Eye) など使用されていますが、外出先などでは、何も用意する必要のない口文字盤法が非常に便利とのことでした。

深瀬さんが入院する時には病院と交渉して、口文字盤によるコミュニケーション法に慣れた介護福祉士の付き添いを認めてもらったお話や、航空機に乗って東京の会議に出かけるというお話に、学生たちは真剣な眼差しで聞き入りました。ALSの患者さんは、深瀬さんのように精力的にあきらめずに周りに働きかけ、活動し続けている人ばかりではないので、患者さん一人一人の気持ちに寄り添うことを忘れないでほしいとのアドバイスもいただきました。

深瀬さんの講義によって学生たちに伝授されたのは、将来、作業療法士になったとき、ALSの患者さんに勇気をもって寄り添える逞しさなのではないかと思います。また、生活場面で患者さんに身近に付き添う介護福祉士という、なくてはならない他職種への敬意の念も自然に心に残ったと思います。最後の記念撮影では笑顔の多い学生たちでした。



看護学科

看護研究 研究計画書発表会

11月末に看護学科4年生の看護研究の研究計画書発表会が行われました。

看護研究は、よりよい看護を実践したり、看護の質を高めるための大切なものであり、研究計画書は看護研究を進める上でのガイドとなるため、非常に重要です。学生たちは4月から8か月間、4～5名のグループに分かれて担当教員の指導のもと研究計画書を作成しました。研究テーマは、これまで学んだ講義・演習・実習などで生まれた興味・関心や疑問に基づいてグループごとに設定します。

発表当日は、パワーポイントを使用し、質疑応答を含む15分間のプレゼンテーションを行いました。どのグループの発表も身近なテーマを挙げており、学生たちは興味を持って聴いていました。司会も学生がつとめ、積極的に学生同士で意見交換がされました。発表会を通して得た研究計画書に関する意見や助言をもとに、計画書の内容を修正・追加し、より洗練された研究計画書を作成しました。学生からは、「講義ではわからなかった研究計画書作成の過程を実際に行うことで理解が深まった」「過去に発表された多くの研究を読み、何が明らかになっているのか調べることが大切だと思った」「ゼミを通して得た学びは自分が現場で看護研究を行う時に役立つと思った」等の声が聞かれました。来春から臨床現場で働く4年生ですが、日々の看護を通して感じた疑問や気づきを大切にしながら、よりよい看護を実践できる看護師になって下さいね。



こども発達学科

表現力スキルアップ講座・ミュージカル作りでの学び

11月22日に2回目となる表現力スキルアップ講座の修了公演を開催しました。今年度は修了公演に向けた学生主体の活動を劇団と捉え「劇団きいろ」（由来はこども発達学科のカラーが黄色だから）という名前前で再スタートすることになりました。昨年の反省から、公演の準備時間をしっかり確保しようということになり、表現の専門家による全12回の講座を受講しながら、講座とは別の日に活動時間を新たに設けました。週1回の劇団の活動は、3年生が中心となってミュージカル作りに取り組みました。

ミュージカルの内容に関しては既存のものにするか、それとも創作したものにするかをしっかり話し合った後に「シンデレラ」と「白雪姫」を組み合わせた独自の創作ミュージカルが生まれたようです。

配役に関しては脚本担当学生と演出担当学生がオーディションを開催しました。必ずしも望んだ役につけなかった学生もいましたが、練習が進むにつれ与えられた役を楽しみながら真摯に役作りをしている姿が印象的でした。また、脚本に関する意見の不一致から対立する場面もありましたが、しっかり円を作ってミーティングを開き、先輩後輩関係なく意見を交換する場面も見受けられました。

コミュニケーションをとりながら協働で問題を解決しようとする前向きな姿勢から、今回も多くのものを学び、スキルアップする機会になったのではないかと思います。次年度の公演が早くも楽しみです。





おはなしあそびと並行して、大道具も自分達で作りました。

附属幼稚園恒例の 発表会と幼児期の教育

附属幼稚園の運動会や発表会などの行事は、毎日のこどもたちの生活・遊びの延長線上にあります。こどもたちが毎日の生活や遊びの中から「やってみよう」という気持ちが湧いてくることを大切にして、それを実現できるように時間や場所、仲間を保障します。保育者の手助けを得ながら、達成感や満足感を感じ『またやりたい・もっとやりたい』という思いを膨らませながら毎日を過ごしています。

「おはなし」を題材にした劇遊びでも同じこと。「やりたい」「やってみよう」を感じることで「こうするとどうなるかな?」「こんなこととして

みたい」というイメージがこどもたちの中に広がり、こどもたちから発信されたことを保育者や友達と相談しながら変更の積み重ねていくことで、劇遊びで、生き生きと『なりきる姿』やイレギュラーが起きても、劇ごっこの中で『自分たちの力で解決する姿』へとなっていきます。

年少児や満3歳児は、まだまだ遊びの中でお友達とのイメージの共有は難しいですが、思いを伝えたり表現できない時に、お兄さんお姉さんの手助けやアドバイスに支えられます。年長児や年中児の考えた台詞を真似することでイメージを得ることもあります。保育者の助けがなくても、こども同士のやりとりから、自然な流れで『なりきる』ことの楽しさや、やりかたを感じる事ができたり、助け合ったり刺激を受けあうことでより自分たちの(自分の)劇だと実感できるよう、劇遊びを支えていくようにしてきました。

当日は、年齢・個性の違いはあれど、みんなが主役です。ステージの上で、縦割りのお互いの違いを認識しつつ共に遊ぶ姿や生活の姿、それぞれのこどもが、自分の心の底から湧き出るいろいろな表現方法で劇遊びを楽しみました。出番を間違えたり、台詞が出ないときも、こどもたち同士、保育者も交えて助け合いながら、進めていく姿もありました。

また、保護者の方達もそのような取り組みをご理解いただき、ステージで繰り広げられる「げきあそび」の世界でいっしょに遊ぶ気持ちで見ていただけたことで、ステージと客席が一体となった素晴らしい一日を過ごすことができました。



できた大道具を遣って、ステージでげきあそびをしました。

附属幼稚園とこども発達学科との連携

附属幼稚園のホームページに園の特徴を次のように説明しています。

『一人ひとりの子どもが、日々瞳を輝かせて生活し、充実した幼児期を過ごせるよう保育を展開します。また、北海道文教大学こども発達学科とともに「今日の子ども」の成長に適する保育の開発と実践を行っています。人とかがわりを持ち、さまざまな困難に立ち向かう逞しい子どもは、さまざまな人々と密接な触れ合いによって育てられます。日々の保育環境の中で交される先生やお友達、大学生や高校生との交流は、多様な人の存在を知る大事ななかかわりの体験です。さまざまな人の人柄や思いに触れることで、「毎日全力疾走している子どもたち」は癒され元気を回復し、成長していくのです。』

例年、運動会や夏祭りなどの恒例の行事にたくさんの学生ボランティアが参加してくれます。子どもたちにとって、お兄さんお姉さんの参加を得て充実の時間が実現しているのです。特に4年生の参加もめることが特徴で、実習等を終えた学生たちに新たな学びを与えてくれます。幼児と触れ合う経験を持っていない1年生は、幼児たちの日々発揮する姿に目を見張ります。子どもたちが考え合っている場面に触れ、発揮する力に感嘆し、4年生は、育ちの深さを発見します。子どもたちは学生たちの偉大な教師です。

また、教職実践演習という授業でのインターンを受け入れています。11月から12月までの4週間、卒業間近の4年生が、1日4名、3日間保育に参加するのです。保育者の助手的な立場で幼稚園教諭としての自分自身の姿勢態度を明確にするのがねらいです。実習と異なり保育の現実を実感する良い体験になっています。



本年度は、卒業研究の学生が、保育に参加し、フィールドワーク研究としてまとめました。さらに、10月には、札幌市幼稚園連合会の公開保育園として、市内の幼稚園の先生方に保育を公開しました。子どもの自主的な活動、遊びの発展を促す環境、保育の実践について、見ていただいたのですが、その際の研究協議を深める役割を、こども発達学科の美馬正和講師に担ってもらいました。保育の内容や考え方が参加者の今後の保育に刺激になったと実践助言とともに高評価をいただいたところです。

今後も、多様ななかかわりを求め、大学の先生方とも協議し、実践を協働できるように積極的姿勢を持ち続けていきたいと考えております。



事務局 便り



職員紹介

名前

- 1 配属先
- 2 入職年
- 3 現在の仕事内容
- 4 仕事のやりがい、魅力
- 5 学生へ向けてのメッセージ



中村 美菜

- 1 学務部 学生課
- 2 2013年
- 3 実習用定期券や学生駐車場などの各種受付や、その他学生からの学生生活に関する問合せ窓口を担当しています。
- 4 学生と直接話す機会が多いので、学生の様々な表情や成長を間近で見ることが出来る点に楽しさと魅力を感じます。
- 5 皆さんの学生生活がより良いものになるよう、サポートしていきますので、お気軽に窓口にお越しください。



神原 麻未

- 1 学務部 教務課
- 2 2018年
- 3 窓口業務、証明書発行、履修登録の手続き、国家試験・免許の手続き、定期試験対応などの仕事を行っています。
- 4 授業がスムーズに行えるよう、日々業務に取り組み、支えていくことにやりがいを感じています。
- 5 4年間は本当にあっという間です。何事にもチャレンジして、充実した大学生活を送って下さいね。



遠藤 志津子

- 1 学務部 国際課
- 2 2015年
- 3 留学生の派遣、受入れ。国際交流に関する業務。
- 4 留学生が日々日本に順応していくことや、海外へ留学した学生が自信にあふれた姿で帰国した時など、デスクワークだけでは感じることのできない感動があります。
- 5 外国には自国には出会うことのなかった人たちの出会いが待っています。様々な国の人と交流し、見聞を広めてください。



石井 聖乃

- 1 学務部 図書課
- 2 2014年
- 3 貸出・返却などのカウンター業務、図書の選定や発注などを行っています。他に、選書ツアーの企画や図書館だより「Biblio」の編集も行っています。
- 4 道内私大図書館の中でもトップクラスの利用者数を誇る図書館で、皆さんの勉強に役立ててもらえることにやりがいを感じます。
- 5 お探しの本が見つからない時や、わからないことがありましたら、気軽に声をかけてください。

入 試 日 程

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	手続締切
一般入試(Ⅱ期)	2/15(金)～3/4(月)	3/8(金)	3/15(金)	3/29(金)
一般入試(Ⅲ期)	3/1(金)～3/15(金)	3/20(水)	3/21(木)	
センター利用入試(後期)	2/15(金)～3/4(月)	個別試験は課さない	3/15(金)	
特待生入試(C日程)	2/15(金)～3/4(月)			

※一般入試(Ⅲ期)の実施学科は、国際言語学科、健康栄養学科、こども発達学科のみ
 ※特待生入試(C日程)の実施学科は、理学療法学科、作業療法学科、看護学科のみ
 ※特別入試(後期)、編入学(後期)については、「学生募集要項2019」にてご確認ください。

AO入試 一後期一〔国際言語学科〕

コード	エントリー締切	面談日	出願許可	出願期間	合格発表	手続締切
I	1/30(水)	2/6(水)	2/8(金)	2/12(火)～2/15(金)	2/18(月)	3/8(金)
J	2/6(水)	2/13(水)	2/15(金)	2/18(月)～2/22(金)	2/25(月)	3/15(金)
K	2/13(水)	2/20(水)	2/22(金)	2/25(月)～2/28(木)	3/2(土)	3/26(火)
L	2/27(水)	3/6(水)	3/8(金)	3/11(月)～3/14(木)	3/16(土)	

【面談時間】①14:00～14:30(30分) ②14:40～15:10(30分) ③15:20～15:50(30分)のうち、希望の時間帯。

【出願資格】国際言語学科：国語または外国語の3年間の評定平均値が3.2以上の者。
 またはエントリーシートに英文による自己紹介を記入した者。(詳細は「学生募集要項2019」参照)

入 試 の ポ イ ン ト !!

POINT①

一般入試とセンター試験利用入試は“併願”が可能。
 志願書を同時に出す場合、
 同封する「調査書・志望理由書」は各1部で結構です。

POINT②

特待生入試で合格すると、4年間授業料が半額に減免されます。
 (但し、毎年度再審査あり)

POINT③

第2志望まで出願が可能(一般入試、センター試験利用入試)。

第1志望	第2志望
健康栄養学科 理学療法学科 作業療法学科 看護学科	国際言語学科、こども発達学科への志願が可能です。 全学科への志願が可能です。
こども発達学科	国際言語学科、健康栄養学科への志願が可能です。

●再試験はありません。第1志望学科の得点で、選抜されます。
 ●第2志望の受験料は“無料”です。 ●志願書の指定欄にチェックするだけで出願できます。

北海道文教大学のすべてがわかる一日

HBUナビゲーション & Open Campus

高校1、2年生の皆さん、いち早く“大学生”を体験しませんか？
 受験に大切なポイントやここでしか聞けない情報が盛り沢山！
 保護者の方も是非一緒にご参加ください！

3.23 土 10:00～14:30

特典 参加高校生にはもちろん「図書カード」
 「大学オリジナルグッズ」プレゼント

内容(予定)

- 学科紹介 ■ 体験講義 ■ 先生や先輩とフリートーク
- 学食体験 ■ キャンパスツアー ■ 入試個別相談コーナー 他

●体験講義テーマ(予定)

学科	テーマ
国際言語学科	・スピーキング～Speak up! とにかくどどん話してみよう!～
健康栄養学科	・よくわかる基礎栄養～我々は!なぜ食べるのか～
理学療法学科	・ヒトの足について学ぼう!
作業療法学科	・講義:私の元気のためにできること:WRAPとマインドフルネス ・先輩による実習体験:体験マインドフルネス
看護学科	・先輩による実習体験:「革細工」～楽しく作って作業療法体験～ ・ウイルスによる食中毒の予防
こども発達学科	・ココロと体の健康を支えるために～ストレスとの付き合い方を考えてみよう!～ ・乳児のバイタルサイン測定と身体計測 ・楽しく遊べる「文教ペンギンルームの3つのひみつ」 ・「伝える・伝わる～コミュニケーション～」

